

# 城北防災だより

2023/8/23

62号

城北地区防災対策協議会  
事務局：城北地区公民館

## 城北地区の「水害リスク」を正しく理解して、命を守る行動をとることが重要です！！

8月15日 午後4時40分に、市内全域に「大雨特別警報」と「緊急安全確保(警戒レベル5)」が発令されました。この時、すでに千代川上流の佐治では、「記録的短時間大雨情報」が発表され、午前8時前には「線状降水帯」も発生していました。1時間雨量は97.5ミリの観測史上1位を更新し、24時間雨量も465.0ミリ(観測史上位)と、8月ひと月分の2倍以上の雨がたった24時間で降っていました。

「大雨特別警報」が発令された午後5時時点でも、佐治では1時間雨量33.0ミリの激しい雨が降り続き、佐治川ダムでは緊急放流を開始していました。この時、行徳水位観測所では、千代川の水位が橋桁近くにまでぐんぐん上昇し、「水位危険レベル2」に達していました。

人間の行動原理として、災害発生前は危険性を過少に受け止め、異常な事態を正常だと思う心理が働くのだそうですが…。今回は、たまたま逃げ遅れによる被害がなくて安堵しました。

「緊急安全確保(警戒レベル5)」とは、既に災害が発生しているか、発生直前であるときに、直ちに安全な場所で命を守る行動に繋げる「防災情報」です。

今一度、城北地区の「水害リスク」について、鳥取河川国道事務所作成資料等で確認します。

### 1. 「内水氾濫」のリスク

城北地区をつらぬいて流れる「狐川」には、内水被害を防ぐために狐川排水機場(ポンプ)が設置され、大雨のたびに城北地区に降った雨水を千代川に排水しています。また、雨量が排水機場の許容量を超えた場合には、浜坂遊水池(重箱公園)に、雨水を流し込むように設計されています。

これらを一体として利用することにより、計算上は「10年に1度の洪水」では沿川道路の浸水を防ぎ、「50年に1度」の洪水では住宅の床上浸水を防ぐことが出来るとされています。

因みに、鳥取市北部の「50年に1度の雨量」は、1時間降水量(mm)「68mm」、24時間降水量は「225.5mm」です。(気象データより)



### 2. 「外水氾濫」のリスク (千代川の3つの特徴)

- ①千代川は全国的に見ても有数の急流河川です。水の流れのエネルギーが大きいため、川岸や護岸が洗掘されやすく、下流部では土砂が堆積しやすい特徴があります。洪水時の初動時間が短かく、上流域で降った雨水は、計算上 約3時間で城北地区に達します。
- ②同規模の八東川などの支川が放射状に合流する流域形状(沖積平野)であるため、洪水が鳥取平野に向かって同時に集中し、水位の上昇が急激となるため洪水時の対応時間が短いという特徴があります。
- ③千代川下流域の鳥取平野は、低平地であることから水害を受けやすく、水はけが悪いという特徴があります。【内水氾濫のリスクも高い】千代川の堤防が決壊すると城北地区は、3~5m水没し半日から1日未滿 浸水したままとります。

